

2013年のできごと

1月5日 全国児童生徒地図作品展連絡協議会総会を開催

国土地理院において、全国児童生徒地図作品展連絡協議会総会（事務局：国土地理院）を開催した。本協議会は、地図を使った教育についての情報交換・共同研究を行うことにより、地図に関する関心を高め、地図を使った教育の一層の向上を図ることを目的としており、本総会では活動の報告及び役員の変更が行われ、会長には川村英一仙台市中学校社会科研究会会長が選任された。

1月5日～2月17日 企画展「第16回全国児童生徒地図優秀作品展」を開催

地図と測量の科学館において、企画展「第16回全国児童生徒地図優秀作品展」を開催した。本企画展は、全国各地で開催されている児童生徒の地図に関する作品展から選ばれた優秀作品を展示するもので、152作品を展示した。また、国土交通大臣賞、文部科学大臣賞の表彰式が1月17日に国土交通大臣室で行われた。

1月11日 第246回地震調査委員会に出席

文部科学省において、第246回地震調査委員会が開催され、齊藤地理地殻活動研究センター長他5名が出席した。本会議では、「2012年12月の地震活動」について、関係行政機関及び大学等による調査観測結果やこれまでの研究成果の整理・分析が行われ、地震活動の現状について総合的な評価が行われた。

1月29日 平成25年度予算の政府案が決定

平成25年度予算の政府案が閣議で決定され、国土地理院関係の予算案は、通常枠で総額約95億円、復興枠として約2.6億円となった。

1月31日 第10回測量技術講演会を開催

北海道地方測量部は、札幌第1合同庁舎講堂（札幌市）において、「道内における地理空間情報の一層の利活用推進に向けて」を主題とする第10回北海道測量技術講演会を（社）日本測量協会北海道支部と共催で開催した。本講演会は、地理空間情報に関する利活用の取組、及びそれを支援するための国土地理院の取組を紹介することにより、地理空間情報の効果的な利用を促進することを目的として開催された。

1月31日 「平成24年全国都道府県市区町村別面

積調」を公表

平成24年10月1日現在の日本国土の面積をとりまとめた「平成24年全国都道府県市区町村別面積調」を公表した。国土の面積は、埋立等により1年間で5.07km²増加し、377,959.91km²となった。

1月31日 九州地方の電子地形図25000等を刊行
電子地形図25000及び数値地図（国土基本情報）について、北海道、四国及び沖縄地方に続いて、新たに九州地方の提供を開始した。

1月31日 基盤地図情報の提供範囲を拡大

縮尺レベル2500の基盤地図情報について、青森県青森市他191市町村のデータ提供を開始し、青森県七戸町他238市町村のデータを更新した。

2月1日～3月3日 「作業規程の準則」の一部改正に関するパブリック・コメントを募集

測量法（昭和24年法律第188号）第34条に定められ、公共測量作業規程を作成するための一般的な規程として制定されている「作業規程の準則」を、新しい技術等に対応するものとするため、一部改正案をまとめ、パブリック・コメントの募集を行った。

2月3日 地図と測量のおもしろ塾「日本地図と友達になる～」を開催

地図と測量の科学館において、地図と測量のおもしろ塾「日本地図と友達になる～」を開催し、小学生とその保護者が日本地図について学んだ。

2月3～7日 地球規模の地理空間情報管理(GGIM)に関する第2回ハイレベルフォーラム等関係会合に出席

カタールのドーハにおいて、第2回GGIMハイレベルフォーラム等関係会合が開催され、福島応用地理部長他1名が出席した。本会議では、議長サマリー及びドーハ宣言が採択された。

2月7日 地震・津波防災セミナーを開催

近畿地方測量部は、和歌山市民会館（和歌山市）において、地震・津波防災セミナーを和歌山県と共同で開催した。本セミナーは、東海・東南海・南海地震等の大規模災害に備えるため、防災関係機関の地震・津波防災対策及び災害復旧活動の向上に資することを目的として開催された。

2月8日 第247回地震調査委員会に出席

文部科学省において、第247回地震調査委員会が開催され、齊藤地理地殻活動研究センター長他5名が出席した。本会議では、「2013年1月の地震活動」について、関係行政機関及び大学等による調査観測結果やこれまでの研究成果の整理・分析が行われ、地震活動の現状について総合的な評価が行われた。

2月14日 電子国土 Web.NEXT の機能改良を実施
開発をすすめている電子国土 Web.NEXT において、作成・表示した作図情報の保存共有や、使いやすい地図にするための表現の改良を実施した。

2月16日 日本国際地図学会学会賞(論文賞)を受賞

日本大学桜門会館(千代田区)において、日本国際地図学会平成25年度通常総会(同総会において「日本地図学会」と改称)が開催され、政春基本図情報更新技術分析官が学会賞(論文賞)を受賞した。受賞対象論文は、「日本の地形図等に用いられた多面体図法の投影原理」である。

2月18日 第198回地震予知連絡会を開催

関東地方測量部において、第198回地震予知連絡会を開催した。本会議では、運営要綱の改正が承認された。また、全国の地震活動や日本列島の歪み変化、南海トラフ・南西諸島海溝周辺の短期的スロースリップに関する報告等が行われた。また、重点検討課題「東北地方太平洋沖地震に関する検討(まとめ)」に関する報告・検討が行われた。

2月25日 平成25年(2013年)2月25日16時23分頃の栃木県北部の地震に伴う地殻変動を検出

2月25日16時23分頃に発生した栃木県北部の地震(M6.2、深さ約10km、最大震度5強)に伴う地殻変動を、電子基準点で検出した。

2月28日 北陸及び近畿地方の電子地形図25000等を刊行

電子地形図25000及び数値地図(国土基本情報)について、新たに北陸及び近畿地方の提供を開始した。

3月5日 第5回電子国土基本図のあり方検討会を開催

関東地方測量部において、第5回電子国土基本図のあり方検討会を開催した。本検討会では、電子地形図の提供形態のバリエーションの拡充や、紙地図(印刷図)の見やすくわかりやすい表現方法、国土地理院の Web 地図の表現方法や機能強化等につい

て議論された。

3月5~8日 第21回欧州 VLBI グループ会議及び国際 VLBI 事業第29回評議会に出席

フィンランド共和国のエスポー市において、第21回欧州 VLBI グループ会議及び国際 VLBI 事業(IVS)第29回評議会が開催され、栗原基線解析係長(宇宙測地課)他1名が出席した。グループ会議では「VLBI2010」に関する講演等が行われ、評議会では VLBI2010 観測施設の整備状況等についての報告及び議論が行われた。

3月6日 第1回 G 空間×ICT 推進会議に出席

総務省において、第1回 G 空間×ICT 推進会議が開催され、村上企画部長が出席した。本会議では事務局から会議の趣旨、開催時期等について説明があった後、各構成員から取組みの紹介や提言等が行われた。

3月7日 「明治前期の低湿地データ」を公表

液化状等の地震防災対策に役立てるため、明治13年~23年に国が作成した地図(「第一軍管地方二万分之一迅速測図原図」及び「京阪地方仮製二万分之一地形図」)を基に、当時の土地利用の状況を判読・分析し、湖沼、水田、湿地等、水に関係する土地の区域を抽出した「明治前期の低湿地データ」を作成し公表した。

3月7日 第75回地名等の統一に関する連絡協議会を開催

関東地方測量部において、第75回地名等の統一に関する連絡協議会が開催され、村上企画部長他10名が出席した。海洋情報部との協議の結果、決定地名の修正、追加及び変更についての議題が審議され、承認された。

3月8日 平成23年東北地方太平洋沖地震から2年間にわたる地殻変動の特集ページを新設

平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震から2年間にわたる地殻変動について特集するページを新設した。

3月8~29日 「電子基準点のみを既知点とした基準点測量マニュアル案」「GNSS 測量による標高の測量マニュアル案」に関するパブリック・コメントを募集

公共測量で用いられる新技術の測量方法を確認する資料として使用されるよう、公共測量作業規程の

準則第 17 条第 3 項で規定されている「国土地理院が新しい測量技術による測量方法に関するマニュアルを定めた場合」のマニュアル案 2 つのパブリック・コメントの募集を行った。

3 月 9 日～6 月 9 日 企画展「みんな 地図と仲良くなろう」を開催

地図と測量の科学館において、企画展「みんな 地図と仲良くなろう」を開催した。地図に興味をわき、地図や測量に親しみを深めてもらえるよう、地図を使うときのマメ知識、地図の楽しい使い方、国土地理院ホームページの便利な利用方法等を紹介した。

3 月 11 日 第 248 回地震調査委員会に出席

文部科学省において、第 248 回地震調査委員会が開催され、齊藤地理地殻活動研究センター長他 5 名が出席した。本会議では、「2013 年 2 月の地震活動」について、関係行政機関及び大学等による調査観測結果やこれまでの研究成果の整理・分析が行われ、地震活動の現状について総合的な評価が行われた。

3 月 12 日 第 125 回火山噴火予知連絡会に出席

気象庁において、第 125 回火山噴火予知連絡会が開催され、今給黎測地観測センター長が出席した。参加した各機関から全国の火山活動に関する最新の観測結果の報告、総合的な検討が行われ、特に霧島山（新燃岳）、桜島の火山活動について重点的に検討が行われた。国土地理院からは、GNSS 連続観測結果等を報告した。

3 月 13 日 平成 24 年度国土地理院総合評価委員会を開催

関東地方測量部において、平成 24 年度国土地理院総合評価委員会（委員長：出口正義専修大学教授）を開催した。委員会では、平成 24 年度の測量業務の契約状況及び平成 25 年度の入札・契約手続の実施方針等について審議した。

3 月 14 日 標高データの試験配信及び電子国土 Web.NEXT の機能改良を実施

標高データの試験配信を開始するとともに、開発をすすめている電子国土 Web.NEXT において、ベクトルデータの透過度調整機能及び KML での配信機能の実装等、機能の改良を実施した。

3 月 15 日 「地図と測量の科学館」の「日本列島空中散歩マップ」をリニューアル

縮尺 10 万分 1 日本列島の地図に周辺の海域部も加え、日本列島と海底の深さや地形も 3D 体験できるようになった。

3 月 18 日 国土地理院研究評価委員会を開催

関東地方測量部において、平成 24 年度第 2 回国土地理院研究評価委員会（委員長：大森博雄東京大学名誉教授）を開催した。委員会では、特別研究 3 課題の終了時評価が行われたほか、特別研究課題以外の取り組み報告も行われた。

3 月 18 日 基盤地図情報（数値標高モデル）の提供範囲を拡大

縮尺レベル 2500 の基盤地図情報について、東京都大島町他 12 市町村の全域及び北海道函館市他 62 市町村の一部のデータ提供を開始した。

3 月 25 日 第 13 回測量行政懇談会を開催

関東地方測量部において、第 13 回測量行政懇談会（委員長：中村英夫東京都市大学総長）を開催した。本懇談会では、「国土地理院の最近の取り組みについて」、「基本政策部会からの報告について」等の報告及び議論が行われた。

3 月 28 日 地理空間情報ライブラリーサイトを公開

地理空間情報の流通を促進し、活用を進めるため、国土地理院の地図・空中写真及び国・地方公共団体が整備した図面等の検索・閲覧等が行える地理空間情報ライブラリーサイトを公開した。

3 月 29 日 「作業規程の準則」を一部改正

測量法第 34 条に規定されている作業規程の準則を一部改正した。主な改正点は、GPS 衛星を補完する衛星として準天頂衛星を利用できるようになった点、GNSS/IMU 装置を用いた空中写真撮影作業を標準とした点、図化作業において「デジタルステレオ図化機」の使用を標準とした点、航空レーザ測量における情報レベル 500 での数値地形モデル作成を規定した点である。

4 月 1 日 基盤地図情報のグランドデザインを改定

国土地理院が提供する基盤地図情報のあるべき姿や、その適時適切な更新及び活用促進に向けた国土地理院の役割を明らかにするために、平成 21 年 6 月に策定した「基盤地図情報のグランドデザイン」を改め、その第 2 版を策定した。

4 月 1 日 2013 年度版地殻変動補正パラメータを公開

セミ・ダイナミック補正のための 2013 年度版地殻変動補正パラメータを公開した。

4月4日 第2回G空間×ICT推進会議に出席

総務省において、第2回G空間×ICT推進会議が開催され、村上企画部長が出席した。本会議では、将来イメージ及び課題に関する6つのプレゼンテーションが行われ、意見交換の後、2つのアドホック会合を設置することが決まった。

4月5日 東北、関東、中部及び中国地方の電子地形図25000等の刊行

電子地形図25000及び数値地図(国土基本情報)について、新たに東北、関東、中部及び中国地方のデータ提供を開始し、このことにより提供範囲が全国となった。

4月9日 第249回地震調査委員会に出席

文部科学省において、第249回地震調査委員会が開催され、齊藤地理地殻活動研究センター長他5名が出席した。本会議では、「2013年3月の地震活動」について、関係行政機関及び大学等による調査観測結果やこれまでの研究成果の整理・分析が行われ、地震活動の現状について総合的な評価が行われた。

4月13日 平成25年(2013年)4月13日5時33分頃の淡路島付近の地震に伴う地殻変動を検出

4月13日5時33分頃に発生した淡路島付近の地震(M6.3、深さ15km、最大震度6弱)に伴う地殻変動を、電子基準点で検出した。

4月14日 第250回地震調査委員会(臨時会)に出席

文部科学省において、第250回地震調査委員会が開催され、齊藤地理地殻活動研究センター長他3名が出席した。本会議では、2013年4月13日の淡路島付近の地震活動について、関係行政機関及び大学等による調査観測結果の整理・分析が行われ、総合的な評価が行われた。

4月15日 電子地形図25000のDVD版の提供を開始

電子地形図25000(2次メッシュ定型版)のデータを都道府県毎に収録したDVDの販売を開始した。

4月16~19日 「地図と測量の科学館」のガイドツアーを開催

科学技術週間期間中において、「地図と測量の科学館」のガイドツアーを開催し、企画展等の案内を行った。

4月17日 平成25年(2013年)4月17日17時

57分頃の三宅島近海の地震に伴う地殻変動を検出

4月17日17時57分頃に発生した三宅島近海の地震(M6.2、深さ約20km、最大震度5強)に伴う地殻変動を、電子基準点で検出した。

4月18日 平成25年(2013年)4月17日から18日頃の与那国島近海・石垣島北西沖の地震に伴う地殻変動を検出

4月18日23時8分頃の地震(M6.1、最大震度1)をはじめとして、4月17日から18日を中心に発生した与那国島近海・石垣島北西沖の地震活動に伴う地殻変動を、電子基準点で検出した。

4月22日 電子地形図25000において新たな色表現等での出力が可能に

電子地形図25000において、建物色の選択や、地形の陰影表現の選択が可能となった。

4月22日 電子国土Web.NEXTの機能改良を実施

開発をすすめている電子国土Web.NEXTにおいて、地図表現の改良、「ライブラリー」で選択できる主題情報の追加、大容量KMLに対応する、開発中の実験サイトの公開等を行った。

4月23日 地球地図を用いた中国四川省の地図を公開

4月20日に発生した大規模な地震に伴い、大きな地震被害を被った中国四川省雅安市周辺の地球地図を公開した。

4月23日 防災地理情報に関する意識調査についてのアンケート結果を公表

国土交通行政インターネットモニター制度を利用し、平成24年9月14日から10月1日にかけて行った「防災地理情報に関する意識調査」のアンケート結果を公表した。

4月26日 公共測量に使用する2つのマニュアル(案)の公表及びジオイド・モデルの改定と提供を開始

衛星測位を活用した測量業務のさらなる効率化を図るため、「GNSS測量による標高の測量マニュアル(案)」と「電子基準点のみを既知点とした基準点測量マニュアル(案)」を策定し、また、中国・四国・九州地方(一部離島を除く)を改定したジオイド・モデル「日本のジオイド2011+2000」を構築しウェブサイトで公表、提供を開始した。

5月10日 全国の電子基準点で、準天頂衛星及びグ

ロナスの観測データを提供開始

全国の電子基準点で観測した準天頂衛星（日本）及びグロナス（ロシア）のデータ提供を開始した。

5月10日 電子地形図25000等を一時販売停止

電子地形図25000及び数値地図（国土基本情報）において、地形データの一部不具合により、表示が不適切となっている事象が確認されたため、販売を一時停止した。

5月12～16日 GEOSPATIAL WORLD FORUM 2013に参加

オランダ王国のロッテルダムにおいて、GEOSPATIAL WORLD FORUM 2013が開催され、稲葉参事官が出席した。本フォーラムには80か国1,500人以上の参加があり、300名以上から発表が行われた。日本からは、事前会議において、基盤地図情報の無償提供や数値地図（国土基本情報）の4月からの公開等について報告した。

5月13日 第251回地震調査委員会に出席

文部科学省において、第251回地震調査委員会が開催され、齊藤地理地殻活動研究センター長他5名が出席した。本会議では、「2013年4月の地震活動」について、関係行政機関及び大学等による調査観測結果やこれまでの研究成果の整理・分析が行われ、地震活動の現状について総合的な評価が行われた。

5月15日 日本水準原点を一般公開

関東地方測量部は、「測量の日」の記念行事として、公益社団法人日本測量協会の協力を得て、我が国の土地の高さの基準となっている日本水準原点を一般公開した。併せて、パネルの展示やミニ講座を開催して、原点や水準測量等の紹介を行った。

5月18日 平成25年（2013年）5月18日14時47分頃の福島県沖の地震に伴う地殻変動を検出

5月18日14時47分頃に発生した福島県沖の地震（M6.0、深さ46km、最大震度5強）に伴う地殻変動を、電子基準点で検出した。

5月21日 地震学会論文賞を受賞

幕張メッセ国際会議場（千葉市）において、公益社団法人日本地震学会の平成25年度定時社員総会が開催され、西村京都大学准教授（執筆時：国土地理院主任研究官）が地震学会論文賞を受賞した。受賞対象論文は、「新潟－神戸ひずみ集中帯を横断する測地観測による越後平野周辺の地殻変動」で、西村主任研究官を筆頭に、水藤主任研究官、小林研究官、

飛田地理地殻活動総括研究官が共同で執筆した。

5月21日 第3回G空間×ICT推進会議に出席

総務省において、第3回G空間×ICT推進会議が開催され、村上企画部長が出席した。本会議では、各アドホック会合についての報告が行われ、その後意見交換が行われた。

5月23～25日 国連地名専門家グループのエクソニムWG及び専門用語WG会合に出席

ギリシャ共和国のコルフ島において、国連地名専門家グループ（UNEGN）の第14回エクソニムWG会合及び専門用語WG会合が開催され、中村国土基盤情報調整官が出席した。エクソニムWGでは、エンドニム及びエクソニムの現行定義の見直しが議論され、専門用語WGでは、地名関係の専門用語集から削除すべき用語や追加すべき用語等について議論された。

5月24日 第4回東海・東南海・南海地震対策中部圏戦略会議に出席

ポートメッセなごや（名古屋市）において、第4回東海・東南海・南海地震対策中部圏戦略会議が開催され、小白井中部地方測量部長が出席した。会議では、平成24年度の活動成果と平成25年度活動計画について検討が行われ、国土地理院からは電子国土Web.NEXTによるUTMグリッド地図への取り組みについて報告を行った。

5月27～31日 国際標準化機構の地理情報専門委員会（ISO/TC 211）第36回総会に出席

大韓民国の釜山市において、ISO/TC 211第36回総会が開催され、藤村情報普及課長他1名が出席した。総会では、3件のプロジェクトの登録、7件の国際規格案のISO中央事務局への送付等が決議された。

5月29日 第4回G空間×ICT推進会議に出席

総務省において、第4回G空間×ICT推進会議が開催され、村上企画部長が出席した。本会議では、G空間×ICT推進会議とりまとめ案についての説明の後、意見交換が行われた。

5月30日 第199回地震予知連絡会を開催

関東地方測量部において、第199回地震予知連絡会を開催した。本会議では、第23期の地震予知連絡会が構成され、将来検討ワーキンググループから経過報告が行われた。また、全国の地震活動、日本列島のひずみ変化、東北地方太平洋沖地震関連等につ

いて報告が行われた。また、重点検討課題「日本海で発生する地震と津波」に関する報告・議論が行われた。

6月1～2日 ミニフェスタ 2013 in 仙台を開催

東北地方測量部は、仙台市科学館（仙台市）において、『「測量の日」ミニフェスタ 2013 in 仙台』を開催した。本フェスタでは、仙台市の変遷が分かるパネル展示や、「地図とわたしたち」と題した地図教室。測量体験、中学校生徒地図作品の展示等を行った。

6月2日 「2013『測量の日』特別企画～地図と測量で広がる世界～」を開催

地図と測量の科学館において、「2013『測量の日』特別企画～地図と測量で広がる世界～」を開催した。本特別企画では、地理空間情報の活用について紹介するとともに、25回目となる「測量の日」を記念して、測量技術や地図作成技術の変遷を紹介した。また、筑波研究学園都市50周年記念連携事業としてミニ企画展「地図と写真でみるつくばの変遷」も併せて展示した。約2,000名の来場があった。

6月2日 平成25年度「測量の日」における功労者感謝状を贈呈

測量・地図に関する普及・啓発に顕著な功績のあった埼玉県 GIS 普及推進研究会、立命館大学歴史都市防災研究所の2団体、株式会社 GIS 関西技術顧問・日本写真測量学会関西支部長の柳川重信氏、元東京都北区職員の和田陽一氏の2個人の方々に對し、国土地理院長から感謝状が贈呈された。

6月3日 「電子地形図 25000」試用版の利用者登録を開始

データの一部不具合のため販売を見合わせている電子地形図 25000 について、6月中旬の試用版の提供開始に先立ち、利用者登録を開始した。

6月3日 「測量の日」記念フェア 2013 を開催

近畿地方測量部は、大阪合同庁舎第4号館（大阪市）において、「測量の日」記念フェア 2013 として、第17回近畿地方測量技術発表会、パネル展、測量機器・システム展を開催した。

6月3～7日 「測量の日」パネル展及び八重山地区講演会を開催

沖縄支所は、沖縄県庁ロビー（那覇市）において、「役に立つ地理空間情報をあなたに提供します!!」と題したパネル展等を開催し、電子国土 Web 等の照会及びスマホによる位置情報の取得等を体験した。

また、石垣島で記念講演会を開催した。

6月5日 「測量の日」記念講演会を開催

「測量の日」四国地区推進協議会は、サン・イレブン高松（高松市）において、「測量の日」記念講演会を開催し、「防災チェックリスト～防災に役立つ地理空間情報～」について講演を行った。

6月5～7日 「くらしと測量・地図」展を開催

関東地方測量部は、新宿駅西口広場イベントコーナー（新宿区）において、「くらしと測量・地図」展を開催した。「地図っておもしろい」をテーマに、測量や地図に関してさらに理解を深めていただけるよう、親しみやすく役立つ測量や地図の基礎知識や江戸・東京の古地図、最新のデジタル地図等、さまざまな地図を紹介した。

6月7日 第42回国土地理院報告会を開催

日経ホール（千代田区）において、第42回国土地理院報告会を開催した。国土地理院からの報告のほか、一橋大学教授の井上由里子氏から特別講演をいただいた。本報告会には576名の参加があった。

6月10日 国土地理院研究評価委員会を開催

関東地方測量部において、平成25年度第1回国土地理院研究評価委員会（委員長：大森博雄東京大学名誉教授）を開催した。委員会では、平成26年度からの実施を計画している特別研究新規4課題の事前評価が行われた。

6月11日 第252回地震調査委員会に出席

文部科学省において、第252回地震調査委員会が開催され、齊藤地理地殻活動研究センター長他5名が出席した。本会議では、「2013年5月の地震活動」について、関係行政機関及び大学等による調査観測結果やこれまでの研究成果の整理・分析が行われ、地震活動の現状について総合的な評価が行われた。

6月12日 講演会「地図でつなぐ・伝える」を開催

北海道地方測量部は、北海道開発局と共催で北海道大学（札幌市）において、講演会『「地図でつなぐ・伝える」－地理空間情報の活用－』を開催し、岡本院長による講演、意見交換、パネルディスカッションを行った。

6月12日 空中写真・色別標高図・明治の低湿地地図の KML 配信を開始

電子国土 Web.NEXT において、標準地図に加えて、空中写真・色別標高図・明治の低湿地地図の KML 配信を開始した。

6月14日～7月5日 共同研究への参加者を公募

「場所情報コードの位置情報サービスへの応用に関する共同研究」への参加者を公募した。

6月17日 「測量の日」関連行事を開催

中国地方測量部は、ピュアリティまきび（岡山市）において、第18回中国地区測量技術発表会を開催した。

6月18日 第126回火山噴火予知連絡会に出席

気象庁において、第126回火山噴火予知連絡会が開催され、飛田地理地殻活動総括研究官が出席した。参加した各機関から全国の火山活動に関する最新の観測結果の報告、総合的な検討が行われ、特に霧島山（新燃岳）、桜島の火山活動について重点的に検討が行われた。国土地理院からは、GNSS連続観測結果等を報告した。

6月18日 「測量の日」関連行事を開催

中部地方測量部は、ウィルあいち（名古屋市）において、「地理空間情報をめぐる最近の動向」をテーマとして講演会を開催した。

6月20日 「電子地形図25000」試用版の提供を開始

データの一部不具合のため販売を見合わせていた電子地形図25000において、試用版の提供を開始した（7月19日まで）。

6月20～22日 測地基準系の構築に向けた実務的な技術課題に関するセミナーに参加

フィリピン共和国のマニラにおいて、国際測量者連盟（FIG）、国際測地学協会（IAG）等が開催した、測地基準系の構築に向けた実務的な技術課題に関するセミナーに、今給黎測地観測センター長他1名が参加した。本セミナーでは、測地基準系構築及びGNSS連続観測の取組みを紹介するとともに、アジア太平洋地域における統一した測地基準系の構築に向けた議論に参加した。

6月21日 第142回南極地域観測統合推進本部総会に出席

文部科学省において、第142回南極地域観測統合推進本部総会（本部長：文部科学大臣）が開催され、坂部国際課長が出席した。本会合では、第55次観測実施計画についての審議等が行われた。また、第55次南極地域観測隊の隊員が決定され、国土地理院からは、植田強化観測係長（機動観測課）が測地定常

観測担当として派遣されることとなった。

6月25日 「測量の日」関連行事を開催

九州地方測量部は、TKP博多駅前シティセンター（福岡市）において、（一社）福岡県測量設計コンサルタント協会と共催で「測量の日」記念講演会を開催した。

6月25日 「測量の日」関連行事を開催

北陸地方測量部は、石川県庁（金沢市）において、地図パネル展を、（一社）富山県測量設計業協会と共催で富山市立三郷小学校において地図教室と測量体験学習を実施した。

6月25日 第5回G空間×ICT推進会議に出席

総務省において、第5回G空間×ICT推進会議が開催され、村上企画部長が出席した。本会議において、「G空間×ICT推進会議」報告書が取りまとめられた。

6月26日 地球地図を用いたインド・ウッタラカンド州周辺の地図を公開

豪雨により大規模な洪水や土砂崩れが起き、大きな被害が発生しているインド北部のウッタラカンド州周辺の地球地図を公開した。

6月27日 日本列島立体地図を国土交通大臣室に設置

日本列島立体地図（陰影段彩余色立体地図）を国土交通大臣室に設置した。

6月28日 福島第一原子力発電所周辺における基準点測量成果を改定

平成24年12月から平成25年5月にかけて、福島県双葉郡富岡町、大熊町、双葉町、浪江町及び葛尾村で避難指示解除準備区域等への見直しが行われたことに合わせ、基準点の再測量作業及び測量成果の再計算を行い、改定した測量成果を国土地理院ウェブサイトで公表した。

7月1日 中国・四国・九州地方の電子基準点標高成果をより高精度な値に改定

中国・四国・九州地方（一部離島を除く）で取り付け測量及びオフセット量の観測を終えた195点の電子基準点の標高成果について、付属標の標高にオフセット量を加えた値に改定した。

7月1日 観測を強化している地域の地殻変動を紹介するページを新設

地震・火山噴火の調査研究を目的に観測を強化し

ている地域の地殻変動を紹介するページを新設した。

7月2～25日 北海道「網走湖」の湖沼調査を実施

北海道の「網走湖」は昭和44～45年に調査実施してから40年以上が経過しており、湖沼周辺の環境等が大きく変化していることから、北海道開発局網走開発建設部、西網走漁業協同組合からの要望に基づき、また、協力を得て現地調査を実施した。網走湖全域については、2か年で調査する計画としている。

7月9日 第253回地震調査委員会に出席

文部科学省において、第253回地震調査委員会が開催され、齊藤地理地殻活動研究センター長他5名が出席した。本会議では、「2013年6月の地震活動」について、関係行政機関及び大学等による調査観測結果やこれまでの研究成果の整理・分析が行われ、地震活動の現状について総合的な評価が行われた。

7月11日 第6回電子国土基本図のあり方検討会を開催

関東地方測量部において、第6回電子国土基本図のあり方検討会を開催した。本検討会では、改良を行った電子地形図25000の表現や、新たな2万5千分1地形図の仕様、20万分1レベル等小縮尺データの対応、電子国土Webにおける対応等について議論された。

7月12日～9月23日 企画展「富士山」を開催

地図と測量の科学館において、企画展「富士山」を開催した。世界文化遺産に登録が決定され注目が高まっている「富士山」を、地図と測量の関わりから紹介した。

7月16日 平成25年測量事業関係功労者並びに優良業務及び優良技術者表彰を実施

測量事業の推進に功績のあった測量事業関係功労者並びに平成24年度に完了した国土地理院発注の測量業務のうち、特に優れた成績を収めた優良業務及び優良技術者を表彰した。

7月20～22日 「サイエンスフェスタ in 秋葉原」でパネル等を展示

秋葉原駅構内TX広場において、「サイエンスフェスタ in 秋葉原」(主催:首都圏新都市鉄道(株)・(財)茨城県科学技術振興財団)が開催され、企画展「富士山」の紹介や「日本列島陰影段彩余色立体図」のミニ版展示のほか、「つくばエクスプレス沿線のいまむかし」のパネル展示等を行った。

7月20～24日 国際火山学地球内部化学協会2013年学術総会に出席

鹿児島県鹿児島市において、国際火山・地球内部化学協会(IAVCEI)の総会が開催され、小荒井地理情報解析研究室長他2名が参加した。会合では、マグマ形成過程、火山プロセスのモニタリング・観測・モデル化、噴火プロセスと火山発達、火山災害・リスク・環境影響についての講演が行われた。国土地理院からポスター発表を行うとともに桜島の火山土地条件図のpdfファイルを提供した。

7月20～26日 第20回地球地図国際運営委員会、ケンブリッジ会議2013及び地球規模の地理空間情報管理に関する国連専門家委員会第3回会合に出席

英国のケンブリッジ市において、第20回地球地図国際運営委員会(ISCGM)、ケンブリッジ会議2013及び地球規模の地理空間情報管理に関する国連専門家委員会(UNCE-GGIM)第3回会合が開催され、村上企画部長他2名が出席した。

ISCGMでは、ポール・チュン氏(シンガポール国立大学教授)が新委員長に選出された。また、地球地図土地被覆、植生レイヤが解像度500mで作成されたことや地球地図の精度検証作業の中間報告が行われた。

ケンブリッジ会議では、地球規模での地理空間情報の管理・展開、地理空間情報当局の緊急時における役割、地理空間情報イノベーションと法的意味等をテーマとして議論が行われた。

UNCE-GGIMでは、グローバルな測地参照系の構築に向け、各国の貢献を強化していくことの必要性が認識され、これに関する国連総会決議案を作成するための作業部会を形成して行くことが決定された。また、持続可能な開発のための地球地図の整備に関しても議論が行われ、持続可能な開発に関する国連オープンワーキンググループと連携をして行くことが決議された。

7月20日～8月31日 「2013夏休み特別企画」

地図と測量の科学館において、「2013夏休み特別企画」を開催し、「くにかぜ」の内部公開、測量体験教室、地図記号クイズラリー(夏休み特別編)、「地図・測量に関する相談コーナー」の設置等様々なイベントを実施した。

7月24～25日 第10回日米GPS全体会合及び第5回日米宇宙政策協議に出席

三田共用会議所(港区)において、第10回日米GPS全体会合及び第5回日米宇宙政策協議(民生・商業利用)が開催され、今給黎測地観測センター長

他3名が出席した。本会議では、準天頂衛星システムの現状と将来計画やGPS近代化と広域補強システムの状況説明が行われ、また、第8回衛星航法システムに関する国際委員会、マルチGNSSアジア、二国間協議等の国際協力等についての情報交換等が行われた。

宇宙政策協議では、宇宙基本計画の概要説明や第1回国際宇宙探査フォーラムに関する意見交換等が行われた。

7月29～30日 7月26日からの大雨等被害に係る政府調査団員派遣

7月26日からの山口県・島根県地方の大雨による被害の発生を受け、政府調査団（団長：西村内閣副大臣）に宇根応用地理部長を派遣した。

7月30日 「利用者にとって価値ある使いやすい電子国土基本図を目指した提言」をとりまとめ

「電子国土基本図のあり方検討会」（平成24年2月設置、委員長：森田喬法政大学教授）が平成24年2月から平成25年7月まで6回開催され、議論の内容を踏まえた提言がとりまとめられた。提言では、電子国土基本図が利用者にとって価値ある使いやすいものとなるよう、電子国土基本図のデータの取得・更新、表現、提供、活用の観点から今後の方策が示された。

7月30日 電子地形図25000等の販売を再開

電子地形図25000及び数値地図（国土基本情報）について、関東地方の一部について販売を再開した。

7月30日 電子国土Web.NEXTの機能改良及び情報の追加を実施

電子国土Web.NEXTの作図パネルや入力ボタンの操作性を向上させ、表示できる情報を追加した。

7月31日 平成25年度国土地理院入札監視委員会総会及び第1回定例会議を開催

関東地方測量部において、平成25年度国土地理院入札監視委員会総会及び第1回定例会議を開催した。総会では、委員会の運営に関する説明及び委員長の選出等が行われ、委員長には谷津範之委員が選出された。定例会議では、国土地理院が発注した平成24年10月1日から平成25年3月31日までの測量業務、役務の提供等及び物品の製造等の中から委員会が抽出した事案について審議が行われた。

8月1日 中国地方において大雨により被災した地域の空中写真を公開

大雨による甚大な災害があった山口県萩市の日本海沿岸域について、応急対策の円滑な実施に役立つ資料として、被災地域の空中写真撮影を実施し、撮影した空中写真を基に作成した正射画像及び正射写真地図をホームページで公開した。

8月1日～9月20日 「電子国土賞2013」の作品を募集

国土地理院が提供・配信する電子国土基本図等を利用したGISソフトウェアとGISコンテンツの中から優れたものを表彰する「電子国土賞2013」の作品を募集した。

8月4～9日 2013年京都国際地理学会議(IGU2013)に出席

国立京都国際会館（京都市左京区）において、国際地理学連合（IGU）及び日本学術会議が主催する2013年京都国際地理学会議が開催され、宇根応用地理部長他5名が出席し、5件の発表を行ったほか、討議に参加した。また、展示ブースを出展し、英語版電子国土Web.NEXTの体験コーナーと施策紹介パネルを設け、来場者に国土地理院の施策を紹介した。

8月5日 東北地方において大雨により被災した地域の空中写真を撮影

大雨による甚大な災害があった山形県南陽市周辺について、応急対策の円滑な実施に役立つ資料として、被災地域の空中写真撮影を実施し、撮影した空中写真を基に作成した正射画像及び正射写真地図を作成した。

8月7～8日 「子ども霞ヶ関見学デー」に参加

平成25年度国土交通省子ども霞ヶ関見学デーが、中央合同庁舎第3号館において実施され、「地図っておもしろい！」と題して「都道府県分県パズルに挑戦!」、「地図記号パネルクイズ」と地図と測量の科学館のパネル展示を行った。

8月8日 第48回海岸昇降検知センター総会を開催

関東地方測量部において、第48回海岸昇降検知センター総会を開催した。本総会では、気象庁、海上保安庁海洋情報部、国土交通省港湾局、国土地理院及び海岸昇降検知センター事務局から、平成24年度事業報告及び平成25年度実施計画の説明及び研究成果等の発表が行われた。

8月9日 第254回地震調査委員会に出席

文部科学省において、第254回地震調査委員会が開催され、齊藤地理地殻活動研究センター長他6名が出席した。本会議では、「2013年7月の地震活動」

について、関係行政機関及び大学等による調査観測結果やこれまでの研究成果の整理・分析が行われ、地震活動の現状について総合的な評価が行われた。

8月21日 第200回地震予知連絡会を開催

関東地方測量部において、第200回地震予知連絡会を開催した。本会議では、全国の地震活動、日本周辺における浅部超低周波地震活動、日本列島のひずみ変化及び東北地方太平洋沖地震関連について報告が行われた。また、重点検討課題「地震の短期予測の現状と評価」に関する報告・議論が行われた。

8月24～25日 「まつりつくば2013」でパネル等を展示

「まつりつくば2013」において、筑波研究学園都市50周年記念として、国土地理院ブースが設けられ、「空からつくばを眺めよう！時代をタイムスリップ～つくばの「今と昔」地図と航空写真～」と題し、空中写真床展示とパネル展示を行った。

8月30日 電子地形図25000等の販売を再開

電子地形図25000及び数値地図（国土基本情報）について、販売再開地域を拡大し、関東地方の全域及び周辺地域の入手が可能となった。

8月31日 南海トラフ巨大地震を想定した政府現地本部訓練に参加

愛知県自治センター等において、南海トラフ巨大地震を想定した政府の愛知緊急災害現地対策本部の設置・運営訓練が行われ、西野中部地方測量部次長他1名が参加した。

9月1日 総合防災訓練を実施

南海トラフ巨大地震が発生したという想定のもと、政府防災訓練及び国土交通省災害対策本部運営訓練と連携した総合防災訓練を実施した。

9月2～6日 国際測地学協会科学会合2013及びIVS第30回評議会に出席

ドイツ連邦共和国のポツダム市において、国際測地学協会科学会合（IAG Scientific Assembly）2013及びIVS第30回評議会が開催され、宗包主任研究官他1名が出席した。会合ではマルチGNSSに関する講演等が行われ、評議会ではVLBIキャンペーン観測（CONT14）やVLBI2010（VGOS）関係の報告等が行われた。

9月5～6日 東海地震に備えた現地緊急測量調査の訓練を実施

東海地震に備えた現地緊急測量調査の訓練のため、

国土地理院東海機動観測基地（掛川市）に現地緊急測量調査班を派遣し訓練を実施した。東海地震発生に伴う地殻変動把握を目的として、東北地方太平洋沖地震の教訓から、港湾施設等の上下変動をいち早く把握するため、GNSSを使用して変動量を調査する訓練及びGNSS連続観測施設（電子基準点）の点検とともにデータ収集を行い、携帯電話でデータ送信する訓練を実施した。

9月10日 9月2日に発生した突風による被災地域の空中写真を公開

9月2日に発生した突風による被災状況の把握のため、埼玉県、千葉県、茨城県における被災地域の空中写真撮影を実施し、撮影した空中写真を基に作成した正射画像及び正射写真地図をホームページで公開した。

9月10日 第255回地震調査委員会に出席

文部科学省において、第255回地震調査委員会が開催され、齊藤地理地殻活動研究センター長他5名が出席した。本会議では、「2013年8月の地震活動」について、関係行政機関及び大学等による調査観測結果やこれまでの研究成果の整理・分析が行われ、地震活動の現状について総合的な評価が行われた。

9月17～18日 台風第18号及び前線による大雨被害に係る政府調査団員派遣

9月16日からの福井県、滋賀県、京都府における記録的大雨による被害の発生を受け、政府調査団（団長：谷垣防災担当大臣）に宇根応用地理部長を派遣した。

9月24日 台風第18号の大雨等による被災地域の空中写真を公開

台風18号の大雨等による甚大な災害があった福井県、滋賀県、京都府の地域について、応急対策の円滑な実施に役立つ資料として、被災地域の空中写真撮影を実施し、撮影した空中写真をホームページで公開した。

9月24～26日 アジア地理空間情報フォーラム2013に参加

マレーシア国クアラルンプールにおいて Asia Geospatial Forum 2013 が開催され、田中防災企画官が出席した。アジア各国から地理空間情報を活用した取組が紹介され、国土地理院からは「東日本大震災における国土地理院の対応」について発表した。

9月25日 第40回日韓測地・地図協力会議を開催

国土地理院と大韓民国国土地理情報院は、大韓民

国土地理情報院（水原市）において、第40回日韓測地・地図協力会議を開催した。日本側からは松村地理空間情報部長他3名、大韓民国側からは任周彬国土地理情報院長他5名が出席した。会議では、両国における測地、地図作成及び地理空間情報にかかる事業・技術等についての意見交換等が行われた。

9月27日 地球地図を用いたパキスタン南西部の地図を公開

9月24日に発生した大規模な地震に伴い、大きな地震被害を被ったパキスタン南西部アワラン周辺の地球地図を公開した。

9月27日 Young Scientist Award を受賞

つくば国際会議場においてアジア太平洋国際学会2013（APSAR2013）が開催され、森下地球変動観測係長（宇宙測地課）が「Deformation parameter estimation in low-coherence areas using a multi-satellite InSAR approach」について発表し、Young Scientist Award の第2位を受賞した。

10月1日～12月1日 企画展「つくば ときの記憶－地図と写真でたどる学園都市の今むかし」を開催

地図と測量の科学館において、企画展「つくば ときの記憶－地図と写真でたどる学園都市の今むかし」を開催した。筑波研究学園都市の歩みに関して地図・空中写真等の測量成果や建設中の写真、その他貴重な資料の展示を行った。

10月2日 第14回測量行政懇談会を開催

関東地方測量部において、第14回測量行政懇談会（委員長：中村英夫東京都市大学総長）を開催した。本懇談会では、「国土地理院の最近の取り組みについて」、「基本政策部会からの報告について」等の報告及び議論が行われた。

10月6日 地図と測量のおもしろ塾「きみも伊能忠敬だ」を開催

地図と測量の科学館において、地図と測量のおもしろ塾「きみも伊能忠敬だ」を開催し、小学生とその保護者が地図の作り方について学んだ。

10月7日 電子地形図25000等の販売を再開

電子地形図25000及び数値地図（国土基本情報）について、東北地方の販売を再開した。

10月10日 第256回地震調査委員会に出席

文部科学省において、第256回地震調査委員会が開

催され、齊藤地理地殻活動研究センター長他5名が出席した。本会議では、「2013年9月の地震活動」について、関係行政機関及び大学等による調査観測結果やこれまでの研究成果の整理・分析が行われ、地震活動の現状について総合的な評価が行われた。

10月15～17日 地球規模の地理空間情報管理に関する成都フォーラムに出席

中華人民共和国の成都市において、地球規模の地理空間情報管理（UN-GGIM）に関する成都フォーラムが開催され、宇根応用地理部長他2名が出席した。本会議では防災に関する作業部会の設置やポスト2015年の持続可能な開発に関する議題への貢献についての検討等が行われた。

10月17日 台風第26号の大雨等による被災地域の空中写真を公開

台風26号の大雨等による災害があった東京都伊豆大島の地域について、応急対策の円滑な実施に役立つ資料として、被災地域の空中写真撮影を実施し、空中写真及び撮影した空中写真を基に作成した正射画像をホームページで公開した。

10月17日 地球地図を用いたフィリピン中部の地図を公開

10月15日に発生した大規模な地震に伴い、大きな地震被害を被ったボホール島及びその周辺の地球地図を公開した。

10月22日 第127回火山噴火予知連絡会に出席

気象庁において、第127回火山噴火予知連絡会が開催され、飛田地理地殻活動総括研究官が出席した。参加した各機関から全国の火山活動に関する最新の観測結果の報告、総合的な検討が行われ、特に霧島山（新燃岳）、桜島の火山活動について重点的に検討が行われた。国土地理院からは、GNSS連続観測結果等を報告した。

10月26日 地図と測量のおもしろ塾「地図を読んでもみよう」を開催

地図と測量の科学館において、地図と測量のおもしろ塾「地図を読んでもみよう」を開催し、小学生とその保護者が実際の景色と地図を比べることで地図のしくみを学んだ。

10月28～30日 国連地球規模の地理空間情報管理に関するアジア太平洋地域委員会第2回総会及び理事会に出席

イラン・イスラム共和国のテヘラン市において、国連地球規模の地理空間情報管理に関するアジア太平

洋地域委員会 (UN-GGIM-AP) 第 2 回総会及び理事会が開催され、村上企画部長他 2 名が出席した。総会では、UN-GGIM の活動に対する各国政府の認知度を引き上げることや、測地分野の活動の強化等について決議された。理事会では、委員会ウェブサイトの一層の活用等について討議された。

10月30日 「地理院地図」を公開

インターネットを通じて地図等を閲覧できる地図サイト「電子国土 Web.NEXT (試験公開)」を「地理院地図」として正式公開した。

10月30日 台風第 26・27 号の大雨等による被災地域の空中写真を公開

台風第 26・27 号により記録的な豪雨に見舞われた伊豆大島の被災地域について、応急対策の円滑な実施に役立つ資料として、被災地域の空中写真撮影を実施し、空中写真及び撮影した空中写真を元に作成した正射画像をホームページで公開した。

11月1日 多色刷の 2 万 5 千分 1 地形図の刊行を開始

2 万 5 千分 1 地形図について、従来の 3 色刷より詳細で新鮮な内容であり、多彩な色を使って地物を表現するとともに、地形に陰影を付けて立体感を得やすくした多色刷の新たな 2 万 5 千分 1 地形図の刊行を開始した。

11月1日 空中写真の複製・提供方法を変更

空中写真の提供を恒久的に高品質で行うため、ネガフィルムからの複製を廃止し、全て画像データからの複製・提供へと変更した。

11月1日 横手盆地東縁・双葉・関東平野北西縁断層帯の都市圏活断層図を公開

空中写真の判読等によって活断層を抽出し、詳細な位置や断層のずれの方向等を 2 万 5 千分 1 地形図上にまとめた、都市圏活断層図 (横手盆地東縁断層帯とその周辺)「田沢湖」「横手」「湯沢」、(双葉断層帯とその周辺)「亘理」「相馬」「南相馬」、(関東平野北西縁断層帯とその周辺)「高崎」の 7 面を公開した。

11月1日 避難所等の地図表示に関する第 1 回会合を開催

関東地方測量部において、避難所等の地図表示に関する第 1 回会合を開催した。会合では 2 名の有識者から様々な意見が出され、考慮すべき事項等について議論された。

11月5日 第 143 回南極地域観測統合推進本部総

会に出席

文部科学省において、第 143 回南極地域観測統合推進本部総会が開催され、林計画課長他 1 名が出席した。本総会では、第 55 次南極地域観測隊の行動実施計画等についての審議が行われた。

11月6～11日 「琉球国之図と完全復元伊能図フロア展」で地形図を展示

沖縄支所は、沖縄県立武道館アリーナにおいて開催された「琉球国之図と完全復元伊能図フロア展」で、沖縄本島の初版地形図の展示を行った。

11月6～24日 「第 14 回いばらき児童生徒地図作品展」を開催

地図と測量の科学館において、「第 14 回いばらき児童生徒地図作品展」(主催:いばらき児童生徒地図研究会、事務局:関東地方測量部)を開催した。本作品展は、茨城県内の小・中学生を対象として、身のまわりの環境や地域の姿を様々な視点から調べ、地図にまとめることで環境や地域、地図に対する関心を深めることを目的として開催され、全応募作品の中から優秀な作品 55 点を選出して展示するとともに、最優秀賞及び優秀賞については、11 月 9 日に表彰式を行った。

11月7～8日 平成 25 年度国土交通省国土技術研究会に参加

国土交通省本省において、平成 25 年度国土交通省国土技術研究会が開催された。国土地理院から自由課題 (イノベーション部門) 1 課題、ポスターセッション 2 課題の発表を行った。

11月9～10日 つくば科学フェスティバル 2013 に参加

つくば市「カピオ」において「つくば科学フェスティバル 2013」が開催され、「3D で地図を楽しもう」と題して、日本列島立体地図の展示と立体視体験コーナーを設けた。

11月10～14日 衛星測位システムに関する国際委員会第 8 回総会に出席

アラブ首長国連邦のドバイ市において、衛星測位システムに関する国際委員会第 8 回総会 (ICG-8) が開催され、今給黎測地観測センター長が出席した。本会議では、各国の衛星測位システムの現状や将来計画の報告等が行われた。

11月11日 「電子国土賞 2013」受賞作品を決定

国土地理院が提供・配信する電子国土基本図等を利用した GIS ソフトウェアと GIS コンテンツの中か

ら優れたものを表彰する「電子国土賞 2013」等の受賞作品を決定した。

11月11～15日 ISO/TC 211 第37回総会に出席

米国のレッズランズ市において、ISO/TC 211 第37回総会が開催され、藤村情報普及課長が出席した。総会では、2件のプロジェクトの登録、5件の既存規格の定期見直しにおける勧告等が決議された。

11月12日 第257回地震調査委員会に出席

文部科学省において、第257回地震調査委員会が開催され、齊藤地理地殻活動研究センター長他6名が出席した。本会議では、「2013年10月の地震活動」について、関係行政機関及び大学等による調査観測結果やこれまでの研究成果の整理・分析が行われ、地震活動の現状について総合的な評価が行われた。

11月12日 地球地図を用いたフィリピン中部の地図を公開

11月8日にフィリピン中部を襲った猛烈な台風30号により大きな被害が出た、レイテ島の中心都市タクロバン周辺の地球地図を公開した。

11月12日 筑波研究学園都市50周年記念式典に参加

筑波研究学園都市の設立が閣議決定して50周年を迎えることとなり、つくば国際会議場において筑波研究学園都市50周年記念式典が開催された。院長が出席するとともに、会場に「写真と地図でたどる学園都市の今むかし」として空中写真等のパネル・床展示を行った。

11月14日 マルチGNSS解析ソフトウェア「GSILIBプロトタイプ」を公開

国土交通省総合技術開発プロジェクト「高度な国土管理のための複数の衛星測位システム（マルチGNSS）による高精度測位技術の開発」の成果を早期公開するため、今までに開発したマルチGNSS解析ソフトウェア「GSILIBプロトタイプ」の一部を試験研究用として公開した。

11月14～16日 G空間EXPO2013が開催

日本科学未来館において、G空間EXPO2013が開催された。本EXPOは、G空間情報の最先端の技術やサービスを集結し、展示、講演・シンポジウム、体験イベント等を通じ、広く一般の方々に未来をつくる日本の技術やサービスを紹介する場とするとともに、新たな技術やサービスの創出や既存のそれらの高度化・発展に関する民間事業者等の提案や創意工夫を掘り起こす場として開催するものであり、3

日間の入場者数は17,584人であった。国土地理院は、Geo アクティビティフェスタや電子国土賞2013表彰式及び受賞作品紹介、みらい地図作品フェア等を開催した。また、11月15日に東京国際交流館において「国際セミナー 地球規模のG空間情報の舵取りと未来」と題して、ポール・チュン氏（ISCGM委員長）が講演を行った。チュン氏は、翌週の19日、国土地理院長を表敬訪問した。

11月17日 地図と測量のおもしろ塾「地図を作ってみよう」を開催

地図と測量の科学館において、地図と測量のおもしろ塾「地図を作ってみよう」を開催し、小学生とその保護者が自分で書いた絵地図と地形図を比べ測量の必要性を学んだ。

11月19日 地球地図を用いたソマリア北東部周辺の地図を公開

サイクロンの直撃を受け大きな被害が出た、ソマリア北東部プントランド周辺の地球地図を公開した。

11月19日 電子地形図25000等の販売を再開

電子地形図25000及び数値地図（国土基本情報）について、北陸・中部・近畿地方の販売を再開した。

11月19日 航空レーザ測量による数値標高モデルデータの統合と基盤地図情報（数値標高モデル）の提供範囲を拡大

国土地理院が基本測量として整備した3月18日提供分までの航空レーザ測量による数値標高モデルと、2012年3月28日に提供開始した国土交通省地方整備局等が公共測量として整備した航空レーザ測量による数値標高モデルデータ（5mメッシュ）を統合した。また、青森県三沢市他4市町村の全域及び北海道函館市他248市町村の一部のデータ提供を開始した。

11月22日 第201回地震予知連絡会を開催

関東地方測量部において、第201回地震予知連絡会を開催した。本会議では、将来検討ワーキンググループから報告が行われた。また、全国の地震活動、日本周辺における浅部超低周波地震活動、日本列島のひずみ変化及び東北地方太平洋沖地震関連について報告が行われた。また、重点検討課題「物理モデルに基づいた地震発生予測研究」に関する報告・議論が行われた。

11月22日 第55次日本南極地域観測隊が出発

第55次南極地域観測隊の一員として、植田強化観測係長（機動観測課）を派遣した。植田隊員は、定

常観測の測地測量として、東西オングル島での水準測量や精密測地網測量を実施する。また、地形測量として精密地形測量、GNSS 連続観測局及び GNSS 固定観測装置の保守等を実施する。

11月28日 避難所等の地図表示に関する第2回会合を開催

関東地方測量部において、避難所等の地図表示に関する第2回会合を開催した。会合では3名の有識者の意見をもとに、考慮すべき事項等について議論された。

11月29日 関西G空間フォーラム2013を開催

近畿地方測量部は、大阪市内において、関西地域における産学官の連携により関西G空間フォーラム2013を開催した。本フォーラムは、関西における地理空間情報についての現状を認識するとともに、産学官の間で共有化を図り将来を展望することを目的としており、合同シンポジウムの中で第32回測量技術講演会を実施し、国土地理院から3名の講演が行われた。

12月1~3日 第5回アジア・オセアニア GNSS 地域ワークショップに出席

ベトナム社会主義共和国のハノイ市において、第5回アジア・オセアニア GNSS 地域ワークショップが開催され、古屋衛星情報係長（衛星測地課）が出席した。本会議では、アジア・オセアニア地域におけるマルチ GNSS の利用に関する実証実験の成果等が報告された。国土地理院からは、GEONET の GNSS 対応計画、マルチ GNSS を利用した高精度測位技術の開発状況について報告した。

12月6日 平成25年度国土地理院入札監視委員会第2回定例会議を開催

関東地方測量部において、平成25年度国土地理院入札監視委員会第2回定例会議を開催した。国土地理院が発注した平成25年4月1日から平成25年9月30日までの測量業務、役務の提供等及び物品の製造等の中から委員会が抽出した事案について審議が行われた。

12月8日 地図と測量のおもしろ塾「地図ってどうやってできるの？」を開催

地図と測量の科学館において、地図と測量のおもしろ塾「地図ってどうやってできるの？」を開催し、小学生とその保護者が地図記号から地図の表現と正確性を学んだ。

12月9~13日 2013年米国地球物理学連合秋季大

会に出席

米国のサンフランシスコ市において、2013年米国地球物理学連合（AGU）秋季大会が開催され、川元調査員（研究管理課）が出席した。本大会では地球物理学に関する最新の研究成果発表が行われ、国土地理院からは津波予測支援を目的とした、電子基準点を用いてリアルタイム解析及び断層モデル推定を自動で行うシステムについて発表した。

12月10日 第258回地震調査委員会に出席

文部科学省において、第258回地震調査委員会が開催され、齊藤地理地殻活動研究センター長他4名が出席した。本会議では、「2013年11月の地震活動」について、関係行政機関及び大学等による調査観測結果やこれまでの研究成果の整理・分析が行われ、地震活動の現状について総合的な評価が行われた。

12月11日 西之島周辺の空中写真等を公開

11月20日に噴火が確認された西之島周辺の空中写真撮影を12月4日に実施し、空中写真と地形判読図をホームページで公開した。

12月12日 平成25年度補正予算の政府案が決定

平成25年度補正予算の政府案が閣議で決定され、国土地理院関係の補正予算案は、総額約6億円（水管理・国土保全局一括計上分を含む）となった。

12月24日 平成26年度予算の政府案が決定

平成26年度予算の政府案が閣議で決定され、国土地理院関係の予算案は、総額約99億円となった。

12月24日 西之島周辺の空中写真等を公開

12月17日に西之島周辺の空中写真撮影を実施し、空中写真と地形判読図、立体図をホームページで公開した。

12月25日 避難所等の地図表示に関する第3回会合を開催

関東地方測量部において、避難所等の地図表示に関する第3回会合を開催した。会合では3名の有識者の意見をもとに、作業の進め方等について議論された。

12月27日 西之島周辺の衛星画像を公開

12月24日にLandsat-8号衛星が捉えた西之島周辺の画像をホームページで公開した。